

<今回>269回目 2019年11月11日(月)16時~18時 601号室  
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p106 正始元年鏡もあやしい

<前回>268回目(19-10-25) 出席者 10名

資料(19-10-25-1)前回のまとめ(清水)

- 2) 鹿服の里三木山を訪ねて(網島)
- 3) 日本書紀は日本書か日本紀か(高山)
- 4) 折口信夫説と史料事実(高山)

A 報告 泉区歴史の会で鎌倉材木座付近の古寺を訪ねた。下馬から妙光寺、安国論寺、九品寺、光明寺、和賀江港遺跡など見学。下馬では幕末の外国人殺害の一つがあった。お寺は多く日蓮宗の寺である。そのうち九品寺は新田義貞の唯一の鎌倉遺跡、本陣跡に敵味方戦死者を区別なく祀る。光明寺は浄土宗、大きな寺域と枯蓮池の向こうに仏像奥屋があり、額から光明がさしていた。和賀江では学生らがウインドサーフィンをしていた。

B 資料 -2) 大嘗祭の貢納品の鹿服(あらたえ)を四国の忌部氏の末裔が平成時に復活させた記事。

-3) 日本書紀の名称は日本書か日本紀かの疑問に正面から取り組んだ。折口信夫が調べていた。中国史書にならい「書」を目指した。書は帝紀、列伝、志(地理志など)等からなり、膨大である。編年体という。紀伝体とどこが違うか、年順という意味では同じである。帝紀に対しては紀伝体という。

高山氏から折口信夫が調べていることが解り、2つの図書館で借り出しを受けるため折口信夫と書いたらオリジノブオで検索されてないと断られた。シノブと言ったら出て来た。今ではノブオとしか読んでくれないという。

-4) は日本書紀、後日本紀などの史料事実である。解説の中で集解古記に日本書紀とある紹介。

懇親会9名 津多屋16577円(1800・5+1500・1+1900・3) -377円

C 読書 p99 それは後魏の石碑銘 より

1) 魏の人、張猛龍(522年)元悰(535~550年)穆泰(471~499年)の碑銘や墓誌銘に唐の2人の墓誌を加えて魏の石碑群の書体として小林は論拠にしている。

2) 羅振玉の収録した魏の石碑は後魏(北魏と東魏)の石碑だ。いずれも6世紀の石碑だ。6世紀の魏を3世紀の魏と誤断していたのではないか。(古田氏は自ら誤断を経験していたという。)

3) 西暦316年西晋は滅亡して華北は5胡16国の時代に入っていた。その時代の異体文字の抽出が羅振玉の目的だった。禾偏か、衣偏か、示偏(ネ偏)か。この見分けは難しい。

4) 和泉黄金塚古墳は3か所から6つの鏡が出土している。中央槨から2面、そのうちの1つが半円方形帯神獣鏡(景初3年鏡)東槨から3面、西槨から1面、計6面。景初3年鏡のみ槨外で、他の5面は全て棺内にあり、待遇が全く異なる。小林は承知していて、よく考えてくれというのが、魏鏡でない明な証拠である。

5) 羅振玉の「増訂碑別」の「初」の部の文字、「碑別字拾遺」の各種の墓誌から採録した文字を比較すれば初と断定できる(小林和泉黄金塚古墳第7章主要遺物の観察)と小林が言っていた論拠は崩れた。

次回日程 19-11-25(金) 15時から18時 1503号室

-12-9(月) 15時から18時 602会議室

-12-23(月) 15時から18時 603 会議室